

中山恭秀（編）

『3 日間で行う理学療法臨床評価プランニング』

潮見泰藏（杏林大学大学院保健学研究科リハビリテーション科学分野）

理学療法における評価の重要性は改めてここで説くまでもありませんが、学内教育はもとより、臨床教育の場面でも、評価の占める割合は大きく、多くの時間が割かれています。

臨床場面で行われる評価は、実際の患者様に対し、さまざまな制約の中で効率良く進める必要があります。初めて臨床実習に臨む学生の多くが臨床における評価の難しさを実感します。

このたび、東京慈恵会医科大学附属第三病院リハビリテーション科の中山恭秀氏の編集による『3 日間で行う理学療法臨床評価プランニング』が南江堂より出版されました。中山氏と私は、以前日本理学療法士協会教育部で一緒に仕事をさせていただいた経験があり、中山氏の熱心で実直な人柄が強く印象に残っています。本書を手にしてまず感じたことは、中山氏ならびに東京慈恵会医科大学病院リハビリテーション科のスタッフの皆様の臨床教育に対する真摯な姿勢と本書にかける熱意でした。

類書にない本書の特徴は、3 日間という時間枠の中で、「どのように評価を進めていくべきか」という点について、臨床的な視点から極めて実践的な評価の方法を簡潔に、しかもわかりやすく解説しているところにあるといえます。具体的には、前半の章

では、理学療法の代表的な 10 疾患を採りあげ、1 日目には何を行い、2 日目には何を追加し、3 日目にはどのようにまとめるかというように思考のプロセスを展開していくのです。学生にとっては、行動の手順と目標が具体的に記載されており、解釈のポイントにも触れてあるため、読んですぐに実践できるような構成になっています。

後半の章では臨床で使用頻度の高い評価指標について、単に評価指標を掲載しているだけでなく、それぞれの項目についてイラストを交えて見やすく整理した形で解説しています。しかも、検査・測定を実施する上での『コツ』についても触れており、编者らの細やかな配慮が随所になされています。なお、文中のイラストも中山氏の手によるもので、氏のセンスが本書の中にはふんだんに盛り込まれています。

本書は、臨床的な評価の実践方法のセンスを磨くのにうってつけの良書であり、臨床実習に臨む学生はもとより、既に臨床に従事しているセラピストにも広くお薦めする次第です。

（B5 頁 191 2013 年 5 月 定価 3,990 円（本体 3,800＋税 5%）[ISBN978-4-524-26814-6] 南江堂刊）

お知らせ

第 3 回 日本リハビリテーション栄養研究会学術集会 in 福岡

日 程：2013 年 11 月 30 日（土）・12 月 1 日（日）
会 場：アクロス福岡（イベントホール・大会議室・セミナールーム）

テーマ：「リハビリテーション栄養の周知から実践へ」

当番世話人：金久弥生（九州歯科大学）

ホームページ URL：<https://sites.google.com/site/nutrition1130/>

参加費：事前参加登録（上記ホームページより 7 月

20 日～10 月 17 日まで）研究会会員 7,000 円、非会員 8,000 円、当日参加 10,000 円（会員・非会員とも）

※日本リハビリテーション栄養研究会会員以外の参加も可能

お問い合わせ先：第 3 回日本リハビリテーション栄養研究会学術集会運営事務局

E-mail：jarn.fukuoka@gmail.com